

はじめに

21世紀に入ってから、大学入試の英作文では自由英作文の出題が急増し、TOEFL[®]のコンピューター試験でもライティングが要求されるようになった。その傾向に合わせて、昔はほとんど存在しなかった自由英作文対策の指南書も最近増えてきた。大学を目指す受験生やTOEFL[®]受験者のニーズを考えると、需要が高まっているのは理解できる。だが、それらの参考書は、海外で出版されているライティング指導書も含めて、エッセイの書き方ばかりが説明されていて、内容に対する検討や書く内容を決めるための発想法についてはほとんど書かれていない。確かに、書く内容は人それぞれであり、内容論にまで踏み込むのは英作文の指南書の域を越えているとも言える。内容については、普段から問題意識を持って自分の意見を形成するよう心がけたり、国語の小論文やニュースの社説を研究したりすることで対応できることではあるが、問題はそれを英語でどう表現するかである。

個人的な指導経験から言わせてもらえば、大半の学習者は自由英作文の書き方の話は一回説明すればだいたい習得できる。時間がかかるのは、具体的に問題を解いていく際に、いかにして作文にする内容を充実させていくかである。外国語で作文する以上、ゼロから表現がわいてくることなど皆無に等しく、ある程度の知識と表現力がなければ太刀打ちできるものではない。また、大学入試でいえば、受験生の中には自由英作文の勉強法がわからず、結局何もやらずに本番に突入するという人が少なからずいる。これまでの拙書の「教本」シリーズで、私は英作文の初期段階は模範文をきちんと暗記してそれを真似することが大切だと述べてきた。自由英作文とて同じことである。まずは、模範となる文をある程度覚え、その際にそうした文に至る発想法を身につけることが大事である。

そこで、本書は自由英作文の書き方はもとより、よく出題される**50のテーマ**をもとに、内容の発想法と解答例、使える表現などを示すことに主眼を置いた。この一冊をきちんとこなすことで、自由英作文対策にかなりの自信がつくことと思う。よって、本書を丹念に勉強していただきたい。

2012年1月

小倉 弘